

令和2年度

菰野町教育委員会

事務事業点検及び評価報告書

令和3年8月

菰野町教育委員会

目 次

I	令和2年度点検及び評価実施方針	3
	1 趣旨 2 点検及び評価の対象 3 点検及び評価の方法	
II	教育委員会の運営状況	4
	1 教育委員会	4
	2 令和2年度菰野町教育方針	6
	3 事務局体制	7
III	事務事業の執行状況	8
	1 学校教育	8
	(1)豊かな人間性を育む教育の推進	8
	①人権教育の推進 ②道徳教育の推進	
	③いじめや暴力を許さない子どもたちの育成 ④安心できる集団づくり	
	⑤読書活動の推進 ⑥郷土教育の推進	
	(2)確かな学力と社会参画力を育む教育の推進	10
	①学力の育成 ②特別支援教育の推進 ③幼児教育の充実	
	④国際理解教育の推進 ⑤情報教育の推進 ⑥キャリア教育の推進	
	(3)健やかな体を育む教育の推進	12
	①健康教育の充実 ②体力、運動能力の向上 ③食育推進事業	
	(4)信頼される学校づくり	13
	①開かれた学校づくりの推進 ②教職員の資質向上	
	③子どもたちと向き合う時間の確保 ④安全教育の推進と学校施設、設備の充実	
	2 社会教育	17
	(5)地域全体で取り組む家庭教育と青少年健全育成の充実	17
	①家庭の教育力の向上 ②地域における青少年活動の推進	
	③現代社会を生き抜く青少年の健全育成 ○青少年活動支援推進事業	
	(6)活力ある地域社会の構築に向けた生涯学習の推進	18
	①生涯学習推進体制の確立	
	○生涯学習推進事業 ・よもやま歴史教室 ・かもしかライフカレッジ	
	○教育委員会主催人権教育事業 ○教育委員会主催文化事業	
	○教育委員会支援文化事業 ○国際交流事業	
	②公民館機能の充実 ○公民館教室及び講座	
	③図書館サービスの充実	21
	ア)図書館事業 イ)催事室利用状況 ウ)ギャラリー利用状況	
	エ)令和2年度図書館貸出等の状況 オ)研修等の受け入れ実績	
	(7)健やかな心身をつくる生涯スポーツの推進	26
	①スポーツ活動の機会と教室、大会などの充実	
	②スポーツ団体の育成や指導者の養成、支援	
	③スポーツ施設の整備、充実	
	(8)豊かな文化の継承と創造	27
	①芸術文化活動への支援と交流の促進	
	②有形と無形の文化財や歴史的資産の保存と活用 ③郷土愛の育成	
IV	評価委員会の意見	
	資料編	

I 令和2年度点検及び評価実施方針

1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、菰野町教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検及び評価」）を実施する。

2 点検及び評価の対象

令和2年度の教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況のうち、令和2年4月1日から令和3年3月31日までに実施したものとする。

3 点検及び評価の方法

(1) 自己点検評価

第5次菰野町総合計画を踏まえた菰野町教育大綱、菰野町教育振興基本計画及び令和2年度菰野町教育方針に基づき、令和2年度の教育委員会の運営状況、事務事業の執行状況について点検及び評価を行う。

(2) 学識経験者等の知見の活用

菰野町の教育に関して知見を有する次に掲げる者から、教育委員会の自己点検評価結果に対する意見を聴き、本書に記載する。

(知見者)

氏 名	職業（前職含む）
小 林 浩 司	建設会社社長
伊 達 恭 子	元小学校長

(3) 議会への報告

点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告するとともに町ホームページへの掲載等により公表する。

II 教育委員会の運営状況

1 教育委員会

教育委員会では、教育長と4名の教育委員により委員会を開催し、規則等の制定や生徒指導事案など重要な案件を審議した。また、各種研修会に参加し、委員の資質向上に努めるとともに、学校訪問を実施し、学校運営の状況などについて現地で説明を受け、指導及び助言を行った。更に平成27年度から開催されている総合教育会議において、教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策についての協議を行った。

(1) 委員構成

役職名	氏名	住所	任期
教育長	北口 幸弘	菰野	平成31年4月1日就任 令和4年9月30日まで
教育長職務代理者	近藤 保則	池底	平成28年10月1日就任 令和5年9月30日まで
委員	岡島 由香里	田光	平成21年10月1日就任 令和3年9月30日まで
委員	石倉 雅孔	大羽根園	平成30年10月1日就任 令和4年9月30日まで
委員	小崎 玉千香	永井	平成24年10月1日就任 令和2年9月30日まで
委員	水谷 裕康	竹成	平成2年10月1日就任 令和6年9月30日まで

(2) 教育委員会の開催状況

開催数： 定例会 11回、 臨時会 1回

(3) 委員研修状況

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催なし

(4) 学校訪問

- ・(前期) 6月30日 鶯川原小、竹永小、八風中 7月17日 千種小
- ・(後期) 11月13日 朝上小、菰野小、菰野中

(5) 総合教育会議

① (第1回) 5月28日

- 新型コロナウイルス感染症対応について
 - 小中学校の児童生徒の問題行動の現状と課題について
 - ICT活用について
 - 学校の施設整備について
- 4つの議題について現状の報告及び課題の協議

② (第2回) 11月20日

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策時における行事の実施について
- 国民体育大会について
- ICT教育の推進について

3つの議題について現状の報告及び課題の協議

(6) 委員会の主な審議内容

① 第4回教育委員会 (R2. 4. 23)

- 菰野町少年補導員設置要綱の一部改正について
- 令和2年度菰野町奨学金貸付について
- 菰野町学校給食検討会設置要綱について

② 第5回教育委員会 (R2. 5. 8)

- 菰野町議会第一回臨時会の上程議案について

③ 第3回臨時教育委員会 (R2. 5. 28)

- 新型コロナウイルス感染症対応について
- 新型コロナウイルス感染症に対応した社会教育施設利用再開ガイドラインについて

④ 第6回教育委員会 (R2. 6. 30)

- 令和2年度菰野町議会第2回定例会について
- 菰野町立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について
- 菰野町就学援助児童生徒支援給付金交付要綱の制定について
- 菰野町奨学生等支援給付金交付要綱の制定について

⑤ 第7回教育委員会 (R2. 7. 17)

- 菰野町通級指導教室実施要領の制定について
- 令和3年度使用中学校用教科用図書を選定にかかる採択協議会結果について

⑥ 第8回教育委員会 (R2. 9. 24)

- 菰野町立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について

⑦ 第9回教育委員会 (R2. 10. 1)

- 役員改選等について
 - ・菰野町教育委員会教育長の職務を代理すべきものの指名について
 - ・菰野町教育委員会の議席決定について

⑧ 第10回教育委員会 (R2. 11. 13)

- 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業等の利用者負担に関する規則の一部改正について
- 令和2年度第2回総合教育会議について

⑨ 第11回教育委員会 (R2. 12. 21)

- 学校の管理に関する規則の一部を改正する規則について
- 菰野町コミュニティ・スクール運営要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町立学校学校評議員設置要綱を廃止する告示について

⑩ 第1回教育委員会 (R3. 1. 14)

- 小学校、中学校卒業式告辞について

⑪ 第2回教育委員会 (R3. 2. 25)

- 菰野町付属機関設置条例の一部を改正する条例について
- 菰野町各委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
- 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業等の利用者負担に関する規則の一部を改正する規則について
- 菰野町就学指導委員会規則の一部を改正する規則について

- 菰野町奨学金貸付規則の一部を改正する規則について
- 菰野町通学用自転車購入助成事業実施要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町就学援助費交付要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町高等学校等入学準備資金補助金交付要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町特別支援教育就学奨励費交付要綱の一部を改正する告示について
- 菰野町学校給食協会給食費臨時補助金交付要綱の制定について
- 菰野町修学旅行引率等補助金要綱の制定について
- 令和3年度菰野町学校教育指導方針について
- 校長・教頭等異動内申について
- 教諭等異動内申について
- 令和3年度「菰野町ふれあい教室」運営要項について
- 令和3年度いじめ不登校対策事業について
- 令和3年度スクールカウンセラー配置事業実施要領について
- 令和3年度スクール相談ネットワーク配置事業実施要領について
- 令和3年度生徒指導推進協力員配置事業実施要領
- 令和3年度生徒指導推進協力員配置事業実施要領について
- 令和3年度不登校対策支援員配置事業実施要領について
- 菰野町特別支援教育巡回コーディネーター配置要項について
- ⑫ 第3回教育委員会（R3.3.26）
 - 令和3年菰野町議会第1回定例会について
 - 一時預かり（幼稚園型）事業実施要綱の一部を改正する告示について
 - *委員会審議において、上記の議案、事項以外にも学校教育所管事項及び社会教育所管事項等について審議を行っている。

2 令和2年度菰野町教育方針

(1) 学校教育

「新しい時代をたくましく生きる子どもの育成」

・小中学校【資料2】

教育課題を的確にとらえ、子どもを主体にした創意ある教育課程の編成に努め、家庭、地域社会との確かな連携のもと魅力ある教育活動の推進を図る。

・幼稚園

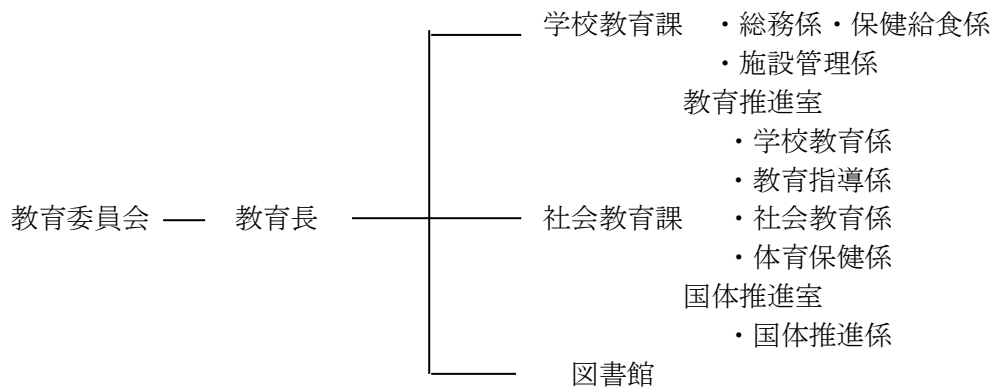
自発的な活動と遊びを通して、総合的な指導により人間形成の基礎を培う。遊びを中心とした生活を通して、生きる力の基礎となる心情、意欲、態度が身につくようにする。

(2) 社会教育

「生涯学習の理念に基づいて幼児期から高齢者に至るすべての住民に少しでも多くの学習の場と機会を確保しながら健康で心豊かな人づくり、地域に根ざした町づくりの実現に努める。」

3 事務局体制

(1) 事務局組織【資料1・9】



(2) 職員数の状況（常勤職員）

R2.4 現在

課名	課長	室長	課長補佐	係長	係	会計年度任用	その他 (国際交流員)	合計
学校教育課	1	1		3	4	5	2	16名
社会教育課	1		1	2	6	1	-	11名
図書館	1		1		1	9		12名
合計	3	1	2	5	11	15	2	39名

(3) 外部職員数【資料4】

(4) 教育予算の推移（決算） *学校教育には教育総務費、奨学金、幼稚園費を含む（単位：千円）

区分	H28	H29	H30	R1	R2
学校教育	1,338,454	1,035,445	969,522	1,352,084	1,058,235
社会教育	375,518	270,118	634,063	234,730	259,207
図書館	74,968	77,731	81,504	76,112	81,289
合計	1,788,940	1,383,294	1,685,089	1,662,926	1,398,731
町一般会計	13,117,623	12,677,413	12,487,879	12,517,061	17,645,081
教育費割合%	13.6%	10.9%	13.5%	13.3%	7.9%

Ⅲ 事務事業の執行状況

1 学校教育

(1) 豊かな人間性を育む教育の推進

① 人権教育の推進

各学校が策定した「人権教育推進計画」に基づき、子どもたちの人権尊重の意識と実践力を養うため、教科等指導や生徒指導、学校経営などの教育活動全体を通して、一人ひとりの存在や思いが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」をめざし、町内すべての小中学校で、子どもたちの発達段階に応じた「人権教育カリキュラム」を作成し取組を進めた。

また、人権意識を培うための学校教育のあり方について、三重県教育委員会人権教育課と連携し、幅広い観点から実践的な研究を行い、人権教育に関する指導法等の改善及び充実に努めた。令和2年度の三重郡人権・同和教育研究協議会研究推進校である菰野幼稚園において研究発表会が開催され、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、三重郡内だけでなく三重県内の学校から参加をいただき、先生方とともに研修を深めた。

② 道徳教育の推進

各学校では、それぞれの学校の実態に即した道徳教育の全体計画を作成し、各教科や総合的な学習の時間および特別活動等のそれぞれの教科の特質に応じて子どもたちの発達の段階を考慮し、生命を大切に作る心や善悪を判断する力を育て、子どもたちの道徳性が養われる教育活動を推進した。

教科化された道徳科においては、よりよく生きるための基盤となる道徳性を子どもたちに育成するために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたり、自己の生き方について考えたりする学習場面を重視した授業を推進した。

③ いじめや暴力を許さない子どもの育成

いじめは「どの子にも、どの学校でも起こり得る」ことであることを周知徹底し、学校教育に携わるすべての関係者がいじめの兆候をいち早く把握して迅速に対応するよう、学期に1回以上のアンケート調査や個別面談等により、いじめの早期発見、早期対応に努めた。いじめ問題の根本的な解消に向けて子どもたちの人権感覚を高め、思いやりの心や個性を認め合う力を育成し、さらには違いを多様性として理解する力を培い、「いじめを許さない心」を育むとともに「いじめを許さない」「見て見ぬふりをしない」ことが自然で当然な価値観とされるよう取組を進めた。また、情報モラル教育やリスク管理を推進するとともに、教職員や保護者等の情報技術に対する対応力の向上を図り、いじめを含むネットトラブルの未然防止や早期発見、早期対応にも努めた。

菰野ふれあい教室を町単独事業として「三重県民の森ふれあいの館」で週3回、指導員2名体制で実施した。令和2年度は小学生1名と中学生11名が入級した。個別指導を中心に基礎学力定着のための学習支援に努めるとともに、教育相談セラピストも年15回派遣し、不登校児童生徒（保護者を含む）の相談に応じてきた。

入級後、継続して休まず通級できた児童生徒もいたが、あまり来室できなかった者もいた。小学生1名は、学校へ登校することが中心であり来室しなかったが、次年度も継続通級の申請があった。中学生11名のうち5名が3年生で、4名が高校へ進学し、1名が就職となっている。1.2年生6名のうち1名は転出、3名が次年度より学校

中心の生活となり、1名が四日市のふれあい学級に通級、1名が次年度も継続通級となっている。

教育委員会事務局に非常勤の教育相談員を配置し、教育相談にあたってきた。令和2年度は、面談43件（来所37件・巡回6件/昨年度計50件）、電話による相談9件（昨年度7件）となっている。相談内容の主なものとしては、不登校の問題や学校生活への適応を含めた学業・進路について等であった。なかでも相談内容として一番多かったのは、個別の指導及び支援が必要な児童生徒についての相談で、カウンセラーや子ども家庭課と連携して発達検査も実施しながら支援の方向を考えたものは23件あった。

不登校児童生徒数は、小学校で16名（前年度18名）、中学校で40名（前年度46名）と、小学校で2件、中学校で6件減少となった。不登校の原因は種々様々である。教育相談員や菰野ふれあい教室指導員が学校の不登校対策委員会に出席するなど学校と連携し、また各学校においては関係機関等と情報の共有を図りながら指導及び支援にあたってきた。

（町不登校児童生徒数） 人、（ ）内は%、R2は暫定値

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
小学校	12(0.51)	20(0.84)	16(0.68)	17(0.71)	18(0.76)	16(0.67)
(全国平均)	(0.42)	(0.47)	(0.54)	(0.70)	(0.75)	
中学校	43(3.36)	37(3.10)	47(4.09)	43(3.78)	46(4.05)	40(3.56)
(全国平均)	(2.83)	(3.03)	(3.25)	(3.65)	(3.55)	

④ 安心できる集団づくり

学校においてはすべての子どもたちにとって居心地の良い学校となるように、子どもたちに対する観察と教育相談に加えて、子どもたちの内面を知ることのできる「楽しい学校生活を送るためのアンケート調査（Q-U調査）」を実施するなど、さまざまな観点から子どもたちの実態を把握し、日常の学級指導や特別活動などにおいても集団づくりの取組を進めた。

児童生徒の悩みを積極的に受け止めることができるようにするため、令和2年度もスクールカウンセラーや生徒指導推進協力員、スクール相談ネットワークを町単独で配置し、生徒指導體制の確立に努めた。学校内の巡回や問題行動等の予兆の早期発見、未然防止、保護者への支援等の取組を進めてきた。各校の状況をスクール相談ネットワークと情報共有し、子ども家庭課や児童相談所、四日市西警察署、三重県教育委員会のスクールソーシャルワーカーや生徒指導特別指導員等の関係機関と連携して、適切な指導に努めた。

⑤ 読書活動の推進

読書活動を通して、子どもたちの感性を磨き、表現力や想像力を豊かなものにし、人生をよりよく生きる力を身につけさせる等、豊かな心の育成に取り組んできた。また、読書活動は主体的な学びや読解力、言語力、創造力を育む重要な学習活動である。学校においては、一斉読書や読み聞かせ、家庭読書の啓発に努めた。

また、平成28年度より町内すべての小中学校へ菰野町図書館司書が月2回の巡回訪問を行い、菰野町図書館と学校が連携し、学校図書ボランティアの協力も得ながら、学校図書館の環境整備に努めた。新型コロナウイルス対応による日程や協力内容の変更はあったが、各校に導入してきた図書システムも軌道に乗り、選書、購入、除籍等も行っている。

(学校図書館の整備状況)

R3.3

	実学級数	図書標準数	R2年度末蔵書数	達成率
菰野小学校	39 学級	13,840 冊	17,604 冊	1.271
千種小学校	13 学級	8,360 冊	10,097 冊	1.207
朝上小学校	17 学級	9,960 冊	13,887 冊	1.394
鵜川原小学校	15 学級	9,160 冊	10,282 冊	1.122
竹永小学校	15 学級	9,160 冊	11,591 冊	1.265
菰野中学校	24 学級	15,520 冊	17,140 冊	1.104
八風中学校	14 学級	11,680 冊	15,531 冊	1.329

⑥ 郷土教育の推進

自分たちが育ってきた地域を大切に守っていこうとする心や地域に貢献しようとする態度を養うなど、郷土について考える機会を充実させていくため、学校と地域が連携し、地域の教育資源を活用したり「わたしたちのまち菰野町」(小学校社会科副読本)を活用したりして、「郷土を知り、郷土から学ぶ」学習活動を推進した。これらの学習活動には、各校の学校運営協議会(菰野町コミュニティ・スクール)の取組とも関連づけながら、郷土教育を実施することができた。

(2) 確かな学力と社会参画力を育む教育の推進

① 学力の育成

きめ細かな個に応じた学習指導の充実を図るため、非常勤講師を町単独で各学校に配置し、小学校3年生～6年生の算数科と、中学校では2年生と3年生の数学科及び英語科で少人数指導を継続的に行っている。

令和2年度全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の学校教育への影響等が考慮され、実施されなかったが、問題冊子は国より各学校に提供がなされた。調査問題には、学習指導要領の目標・内容等に基づき、学習指導上特に重視する点や身に付けるべき力等を示すメッセージが盛り込まれているため、子どもたちへの教育指導の改善・充実のために教職員研修の資料として活用した。また、調査対象学年の小学校6年生と中学校3年生は調査問題に取り組み、採点結果からみられた成果と課題を授業改善に活かす取組を各学校で実施した。

小学校4年生と5年生、中学校1年生と2年生を対象に実施した「みえスタディ・チェック」については、学校で採点を行い、成果と課題を整理し、授業改善に取り組んだ。また、三重県教育委員会による「みえスタディ・チェック」の取組が、平成28年度から小学校5年生と中学校2年生については年間2回実施することに伴い、三重郡内の小中学校で継続的に実施している標準学力検査(CRT検査)の実施学年を、小学校5年生、中学校2年生から小学校4年生、中学校1年生に変更した。小学校4年生では国語科と算数科で、中学校1年生では国語科、社会科、数学科、理科、英語科の5教科で実施した。検査結果を三重郡教育振興会学校教育部会で分析し、児童生徒の学力の定着状況を把握して各校の指導方法の工夫及び改善に繋げた。

教職員の授業力向上については、新学習指導要領に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進するために、授業をつくるためのポイントを「菰野町授業づくりマスター」としてまとめ、各校に配付し、授業づくりのさらなる推進を促した。また、三重県教育委員会北勢教育支援事務所の支援を受けて、新学習指導要領に基づく授業研修を各学校において行った。平成29年度より竹永小学校、朝上小学校において県の「わかる授業確かな実践事業」を受け、三重県教育委員会と連携し

ながら教職員の授業力向上に努めた。

② 特別支援教育の推進

特別な支援が必要な児童生徒について、各校で校内特別支援委員会を組織し、校内のコーディネーターが中心となり児童生徒への支援のあり方について組織的に検討した。その際、町内に2名配置している菰野町特別支援教育巡回コーディネーターを派遣し、助言する体制も整えた。対象児童生徒については、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成したうえで適切な指導及び支援を行った。また、特別支援教育支援員13名を各学校の状況に応じて配置し、通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒への支援にあたってきた。さらに、子ども家庭課とも連携し、個別の指導及び支援が必要と思われる児童生徒について、みえ発達障がい支援システムアドバイザーに助言を求めたり、アドバイザーが対象となる児童生徒へ直接対応したりすることで、学校での指導及び支援に活かしてきた。

また、菰野町立の小学校に在籍する児童の通級による指導を実施するために、竹永小学校に通級指導教室「ほっとルームたいよう」を設置し、指導体制や教育相談体制の整備を行い、10月に開設した。令和2年度は10名の児童の保護者から申込みがあり、「ほっとルームたいよう」での通級による指導を開始した。

特別支援学級在籍児童生徒への指導及び支援については、校内研修会等で全教職員が授業を参観し情報を共有したり、菰野町巡回コーディネーターが訪問し、指導及び支援のあり方について助言したりしてきた。また、37名の介助員を学校の状況に応じて配置し、特別支援学級に在籍する児童生徒への支援にあたってきた。

菰野町就学指導委員会では、対象となる園児、児童及び生徒の観察や聞き取りを行い、あわせて保護者の就学相談も行うことで、子どもや保護者のニーズに合ったよりよい就学指導を目指している。

③ 幼児教育の充実

就学前教育と保育の両方を提供する幼保一体施設の運営を継続して行い、町内全ての小学校区で保護者のニーズに寄り添った就学前教育及び保育、幼児教育の充実に努めた。幼保一体化幼稚園の全てにおいて3歳児保育を実施している。

各中学校区の校園長会議や子ども支援ネットワーク会議の中で、保幼小中の連携を目的とした研修会をもち、学校や園の状況、教育課題、指導方法等についての共通理解を深めることができた。また、幼児教育が小学校教育開始の大切な準備段階であることから、保幼小の相互の活動を、園児と児童が体験したり職員が参観したりすることで、交流を行ってきた。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、キャリア教育の一環としての職業体験学習を行うことはできなかったが、今後も学びの連続性を考慮した保幼小中の連携を深めていく。

④ 国際理解教育の推進

小学校及び中学校の外国語教育の充実を図るために、ALT（外国語指導助手）2名を小学校及び中学校に派遣してきたが、7月に1名が任用を終えて帰国したが、新型コロナウイルス感染症の影響により新しいALTの来日が困難な状況となった。新学習指導要領では中学校の授業は英語で行うことを基本とすることが示されたことを受け、次年度の全面実施に向けて、令和2年度の2学期からは1名のALTを中学校に派遣することとした。

ALT担当者会議及び菰野町教職員研修会教育課程部会を開催し、小中学校での連続した学びの実現のための取組についても情報交換を行っている。

令和2年度から全面実施された新学習指導要領により小学校5・6年生に導入された外国語科において、英語を用いて「何ができるか」という観点から、授業中の子どもたちの学習状況を的確に把握し、適切な指導を行うために、小学校におけるCAN-DOリストの作成を各学校において進めている。

⑤ 情報教育の推進

各学校がICTを活用した教育の考え方と進むべき方向性について共通のビジョンを持ち、より効果的な環境整備と活用方法を模索しながら、教育の質の向上を図っていくために、国のGIGAスクール構想の方針を踏まえた「菰野町学校ICT教育推進計画」を策定し、学校に示した。また、7校が共通の方向を向いて菰野町の情報教育を推進していくために、定期的に情報担当者会議を開催することとし、ICTの環境整備や活用方法について協議を重ねている。

情報活用能力を子どもたちに育成するために、「基本的な操作等の学習」「問題解決における情報活用の学習」「プログラミング学習」「情報モラル・情報セキュリティの学習」の4つの学習に分けて、育成すべき情報に係る資質・能力を「学年別情報活用能力段階表」としてまとめ、各学校に示した。また、新学習指導要領で小学校においてプログラミング教育が必修化されたことを受け、プログラミング教育が各校において確実に実施されるよう、発達段階に応じたプログラミング学習教材の系統表を作成し、各学校に示した。各学校はそれらに基づき、見通しをもって情報教育を推進するために、情報活用能力育成のための年間指導計画の作成を進めている。

令和3年度からの一人一台タブレット端末導入に向けて、一人一台端末を効果的に活用した授業を推進するために、各校に出向いて教職員研修会を実施した。今後も教職員のICT活用指導力向上に向けた研修会を企画・実施していく。

⑥ キャリア教育の推進

各教科及び道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、教育活動全体を通して、かつ他の教育活動とのバランスに配慮しながら、汎用性のある学力、コミュニケーション能力、忍耐力、規範意識、マナー、働く者の権利や義務についての理解、男女共同参画を重んずる態度等、社会的、職業的自立に必要な能力の育成を図った。特に中学校においては、子どもたちが望ましい勤労観や職業観を持ち、主体的に進路を選択する能力を身につけていくことをめざし、職場体験学習を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は中止とした。

(3) 健やかな体を育む教育の推進

① 健康教育の充実

子どもたちが自分自身を価値ある存在と認めて自分を大切に思う自尊感情を育むなど、教育活動全体を通して命の教育に取り組んだ。また、性に関する教育やがん教育、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育等、子どもたちの健康課題については、子どもたちの発達の段階に応じて、体育や保健体育の教科を中心に養護教諭や栄養教諭などとも連携し、学校の教育活動全体を通じた健康教育を実施した。養護教諭により保健だより等を発行し、児童生徒だけでなく、保護者に対しても健康教育の啓発を行った。

② 体力、運動能力の向上

学校体育では、体育や保健体育の授業及び運動部活動、スポーツ行事など、学校教育活動全般を通して、子どもたちが運動やスポーツの楽しさ、喜びを体験し、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うものとして充実を図ってきたが、令和2年

度は新型コロナウイルス感染症の感染防止を講じながら各校で工夫をし、進めた。

児童生徒一人ひとりがそれぞれの能力と適性に応じて、運動の課題を自ら解決することによって運動の楽しさや喜びを味わうとともに、運動の技能を高めることができるように授業づくりを進めた。

また、「三重県児童生徒の体力・運動能力調査」については、調査対象の児童生徒だけでなく、全学年の児童生徒に対し体力測定を実施して、早期からの子どもたちの体力向上に向けた取組を行っているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となった。

平成28年度より千種小学校において県教育委員会の小学校体育体力向上推進事業を受け研究を進めている。体育科の授業において、きめ細かな指導をすることにより、児童の体力向上につなげた。

③ 食育推進事業

望ましい食習慣の形成、食に関する正しい知識の習得、さらにはその知識に基づいて食品の品質および安全性について自ら判断できる能力の育成を図った。また、栄養教諭などを中心に、校内で「食に関する指導」の計画を立て、学校教育全体を通して望ましい栄養や食事の摂り方、食に関する正しい知識等、指導内容の充実を図った。

本年度も菰野小学校、朝上小学校に栄養教諭を配置し、所属校が属する中学校区のすべての小中学校も担当し、小学校1年生から中学校3年生までのそれぞれの発達段階に応じた食育指導を、担任や養護教諭と連携して実施した。

また、小学校では給食だよりを定期的に発行し、児童だけでなく保護者に対しても食育の啓発等に取り組んだ。

なお、令和2年度に設置した菰野町学校給食検討会では、全員喫食の中学校給食実現に向けて、食育の観点からも協議を重ねている。

(4) 信頼される学校づくり

① 開かれた学校づくりの推進

菰野町においては、平成29年度より町内すべての小中学校でコミュニティ・スクールをスタートさせた。

菰野町学校教育指導方針の一つである「地域とともにある学校づくり」を基本として、各学校で地域性や子どもたちの状況に応じた特色ある学校経営がなされるよう、各校の学校経営方針を学校づくりビジョンに位置づけている。学校づくりビジョンは、学校だよりや各校のホームページ等を活用して公開している。また、児童生徒や保護者、教職員を対象とした学校評価についても同様に情報公開を行っている。

学校マネジメントシステム（学校自己評価・学校関係者評価）やコミュニティ・スクール、学校評議員制度等を活用することで、保護者や地域住民が学校運営に参画する機会を増やしている。さらに学校公開週間を通して日頃の教育活動を広く公開するとともに、地域の人材を活用した外部講師（ゲストティーチャー）を教育活動の中に取り入れる、また中学生が地域のふれあいまつり等にボランティアとして参加するなど、地域と学校の双方向の連携を図り、地域に信頼される「地域とともにある学校づくり」に努めた。各学校においては、これまでの地域と連携した取組が組織的に活動できるようになり、これらの取組を通して地域の方々や児童生徒にとってよい刺激となるなど、学校品質の向上につなげることができた。

また、子どもたちの登下校の安全確保のために、学校とPTA等が協力して通学路点検を行った。さらには、教育委員会や関係行政機関、警察と連携して登校時の見守り等を実施した。

② 教職員の資質向上

日常的にOJTによる人材育成を行い、授業の進め方や生徒指導のあり方等の具体的な課題について同僚との議論を通して互いの力を磨こうとする「育てる文化」をつくりながら教職員としての資質の向上を図った。また、教職員同士の対話を重視し、互いに認め合える職場づくりをめざすとともに、学校の課題を共有し解決していくために、組織として対応する教職員集団を育成し、学校組織の活性化を図った。若い教員が増加する中で、教職員の育成については、学力向上アドバイザーを町単独で各校の要請に応じて派遣し、授業力の向上等の支援を進める予定であったが、学力向上アドバイザーの人材確保ができず、令和2年度は各校内研修での対応となった。

③ 子どもたちと向き合う時間の確保

教員による日常的な児童生徒との関わりに加え、教育相談等を定期的を実施し、児童生徒の思いの把握や信頼関係の構築に努めた。

また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置や図書館司書の訪問時間や回数を増やすなどの専門職種の学校への導入を積極的に推し進め、子どもたちと向き合う時間が生み出せるよう、サポートしてきた。また、より専門的なスタッフの知識やスキルを活かし、教育の質を一層高めることができた。

④ 安全教育の推進と学校施設、設備の充実

子どもたちがさまざまな事件や事故及び災害等から自らの命を守るために、あらゆる教育活動の中に安全教育（生活安全〈防犯を含む〉教育、交通安全教育、防災教育）を位置づけ、関係機関や団体等と連携しながら、子どもたち自らが危険を予測したり回避する力の育成に努めた。

施設整備事業としては、鶺川原小学校給食室改修工事、菰野小学校、竹永小学校、菰野中学校、八風中学校昇降機戸開走行保護装置設置工事、菰野小学校、朝上小学校、菰野中学校、八風中学校グラウンド修繕工事を行った。

また、小中学校の全教室への紫外線型空気清浄機の導入や感染症防止に役立つアルコール消毒薬などの消耗品の充実など、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としての学校施設整備を行った。

(施設整備事業の概要)

工事名	請負業者	請負金額	工期	工事概要
鶺川原小学校 給食室改修工事 (建築工事)	(株) 内田工業所	36,339,600 円	6月12日 ～ 9月30日	給食室改修工事 (建築工事)
鶺川原小学校 給食室改修工事 (機械設備工事)	音羽電気(株)	21,791,000 円	6月26日 ～ 9月30日	給食室改修工事 (機械設備工事)
鶺川原小学校 給食室改修工事 (電気設備工事)	林電気工事(株)	18,403,000 円	6月26日 ～ 9月30日	給食室改修工事 (電気設備工事)

菰野小学校 昇降機戸開走行保護 装置設置工事	三菱電機ビルテク ノサービス (株) 中部支社三重支店	935,000 円	5 月 22 日 ～ 8 月 31 日	昇降機戸開走行 保護装置設置工事
竹永小学校 昇降機戸開走行保護 装置設置工事	日本オーチス・ エレベータ (株) 中部支店	3,080,000 円	10 月 1 日 ～ 12 月 31 日	昇降機戸開走行 保護装置設置工事
朝上小学校 グラウンド 修繕工事	日本フィールド・ システム (株) 中部支店	495,000 円	8 月 3 日 ～ 8 月 31 日	グラウンド 修繕工事
菰野小学校 グラウンド 修繕工事	日本フィールド・ システム (株) 中部支店	484,000 円	10 月 1 日 ～ 10 月 31 日	グラウンド 修繕工事
八風中学校 昇降機戸開走行保護 装置設置工事	三菱電機ビルテク ノサービス (株) 中部支社三重支店	467,500 円	5 月 22 日 ～ 8 月 31 日	昇降機戸開走行 保護装置設置工事
菰野中学校 昇降機戸開走行保護 装置設置工事	日本オーチス・ エレベータ (株) 中部支店	3,080,000 円	10 月 1 日 ～ 12 月 31 日	昇降機戸開走行 保護装置設置工事
八風中学校 グラウンド修繕工事	日本フィールド・ システム (株) 中部支店	495,000 円	9 月 1 日 ～ 9 月 30 日	グラウンド 修繕工事
菰野中学校 グラウンド修繕工事	日本フィールド・ システム (株) 中部支店	858,000 円	11 月 2 日 ～ 11 月 30 日	グラウンド 修繕工事

[主な修繕内容]

菰野小学校 : 消防用設備修繕、中校舎 1 階床補修及び各教室修繕、電気設備 (職員
玄関・体育館・2 階壁・校長室) 修繕、職員下足収納箱修繕、体育館
折畳式ミニバスケットゴール更新工事、C 館サッシ遊具修繕工事、
B 館 2 階図書室屋外電気時計取替、B 館 1 階電灯・動力盤更新工事
A 館 1 階生活教室照明器具取替、A 館南職員駐車場漏水修理

千種小学校 : 遊具修繕、ネットフェンス更新工事、給食室ガス給湯器更新工事、
網戸工事、共有フォルダ用サーバ修繕、東校舎 3 階女子トイレフラッ
シュバルブ取替

- 朝上小学校 : 遊具修繕、緊急地震速報端末親機交換、網戸修理、ガス警報器更新工事、6年1組教室引戸取替工事
- 鶉川原小学校 : メーターボックス取替、ガス警報器更新工事、食器消毒保管庫修繕空調機ガス漏洩点検修繕工事、1A教室カーテン等修理
- 竹永小学校 : プログラムタイマー付親時計更新工事、1階テラスデッキ修繕工事電話交換機更新工事、PTA室タイルカーペット貼替工事
- 菰野中学校 : 消防用設備修繕、特別教室引戸ガラス取替、武道館オペレーター取替体育館ステージランプ取替、北校舎3階1年8組教室引戸取替他、中校舎2階第2理科室空調設備修繕、中校舎1階第1音楽準備室木製建具鍵取替、空調設備集中管理コントローラー修繕
- 八風中学校 : 職員駐車場外灯照明器具取替、合併浄化槽調整槽用水中ブローワー取替教室カーテン取替修繕、緊急地震速報端末拡張ユニット交換、テニスコートフェンス門扉修繕、グラウンドネットフェンス更新工事、ガス警報器更新工事

【評価と今後の方向】

令和2年度においても、第5次菰野町総合計画の方向性を踏まえて策定された教育大綱、菰野町教育振興基本計画に基づき教育活動を行った。この基本計画では、学校教育においては、菰野町の基本目標である「元気で心豊かな人が育つまち」をまちの将来像とし、「豊かな人間性」「確かな学力と社会参画力」「健やかな体」を基盤とした、『新しい時代をたくましく生きる子どもの育成』を目指すものとなっている。個別の主な事業についての評価と今後の方向については、以下のとおりである。

町内の不登校児童生徒数については、令和2年度は小学校で2件、中学校で6件の減少となったものの、依然として不登校率が高い状況が続いている。学校の支援室や放課後登校、菰野ふれあい教室での学習を通して、自己肯定感や自尊心の育成を図り、徐々に自己実現に向けての成果を上げている子どももいるが、不登校・不登校傾向が長期化してしまっている児童生徒もおり、不登校への対応も重要であるが、未然防止の取り組みの充実が必要である。子どもたち一人ひとりの状況に応じた多様な学びの場の提供が求められるなか、引き続き不安や悩みを受け止められる体制作り（教育相談の充実、「楽しい学校生活を送るためのアンケート調査（Q-U調査）」等の取組、カウンセラー等の配置、教職員のカウンセリングマインド研修等）の充実を進める。

読書活動の推進については、一斉読書の取組、図書標準数達成に向けての書架整備、「みえの学力向上県民運動」の一つである「家読（うちどく）」など読書活動の充実に取り組んできている。今後も、家庭、図書館司書や図書ボランティアの方々と積極的に連携し、学校図書館の環境整備や家庭読書を推進していきたい。

学力の定着に向けて、町単独で各学校に少人数指導非常勤講師を配置し、少人数授業を小学校3～6年生の算数科で、中学校では2年生と3年生の数学科及び英語科で実施し、児童生徒一人ひとりにきめ細かな個に応じた指導をしてきている。今後も引き続き小学校の算数科と中学校の数学科及び英語科に重点をおいた少人数授業の推進を図り、基礎学力の定着ときめ細かな指導を目指していく。

また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全国学力・学習状況調査の実施は中止となったが、これまで「全国学力・学習状況調査」「みえスタディ・チ

ェック」「C R T標準学力検査」を通して、各学校で学力調査の結果を分析し、課題を明らかにして、授業改善に取り組んできた。また、学年末には取組の検証も行った。「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チェック」については、今後も調査結果の分析を実施し、授業改善につなげられるようにしたい。また、調査結果については経年推移からも分析し、有効に活用していく。

特別支援教育については校内特別支援委員会の中で、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援を推進するために、個別の教育支援計画や指導計画を作成して、保護者や関係機関との連携を図り、児童生徒の指導及び支援にあたってきた。就学前、小学校、中学校と途切れのない支援体制を整えるため、子ども家庭課との連携を強めるとともに、町内2名の特別支援教育巡回コーディネーターを各学校からの要請に応じて派遣し、就学相談等の充実を図ってきた。今後も、途切れのない支援体制の整備、関係機関との連携を充実させる。また、障害者差別解消法を受け、今後も学校現場における合理的配慮の提供についても各校と協議しながら取組を進めていく。今年度竹永小学校に開設した通級指導教室「ほっとルームたいよう」については、通級指導担当教員の発達障害のある児童への指導・支援に係る専門性の向上を図ると共に、通級指導教室の指導・相談体制の維持・向上を進めていく。

幼児教育については、令和元年10月より開始された幼児教育・保育の無償化に伴い、保護者の就労状況が変わり、子育て環境の変化、幼児教育・保育へのニーズの多様化が今後もさらに進む。また、幼稚園教育要領（平成29年改訂）や保育所保育指針（平成30年改定）に対応した幼児教育・保育の実現に向け、子ども家庭課と連携し、幼稚園教諭や保育士への研修の充実を図っていく。また、これまで進めてきたCLM（チェック・リスト・イン三重）や個別の指導計画、パーソナルカルテ等の取組も活用し、保育園、幼稚園、小中学校の連携をさらに深める。

英語教育については、外国語指導助手の活用と併せ、学校サポート推進事業「外国語教育巡回専門教員」を活用し、小学校における外国語・外国語活動の授業力向上を推進する。

体力向上については、今後も、町内すべての小中学校において体力テストを実施し、その傾向と課題を分析しながら、基礎体力の向上に向けて取組を進めていく。

コミュニティ・スクールについては、各校での取組が充実してきている。今後も各校・地域の特色を生かした事業を進めていく。

学校施設、設備の充実については、安全安心な施設環境、学習環境の質的向上を図るため、鶯川原小学校の給食室改修工事を実施するとともに、菰野小学校、竹永小学校、菰野中学校及び八風中学校の昇降機戸開保護装置設置工事を行なった。また、小中学校に配置されている全パソコンの更新を行うとともに、GIGAスクール構想に対応できるネットワーク及びシステムの構築も行った。今後も児童生徒の利便性、快適性の向上に向けた対策を継続して進めていく。

2 社会教育

(5) 地域全体で取り組む家庭教育と青少年健全育成の充実

①家庭の教育力の向上

家庭教育講座として、菰野町内の幼稚園、保育園における家庭教育講演会などを行った。

②地域における青少年活動の推進

青少年健全育成を推進するため、地域における非行防止の環境づくりや補導活動等を支援した。

③現代社会を生き抜く青少年の健全育成

青少年育成町民会議を中心とした非行防止パトロール、あいさつ運動等を支援し、補助金を活用することで活動の場を広げ、町ぐるみでの青少年育成活動に取り組んでいるが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により例年実施している事業が中止となった。

○青少年活動支援推進事業

事業名	期日	対象	場所	人数
コボインタフェスティバル	7月5日	小中学生	町民センター ホール	中止
書初め大会	1月	幼保園児 小中学生 一般	体育センター	中止
書初め大会作品展示	1月	〃	菺野町庁舎 1階ロビー	中止
新春たこあげ大会	1月	親子	朝上小学校 (町民会議事業)	中止
育成者指導者研修会 家庭教育研修会	2月24日	一般	町民センター ホール	中止

(6) 活力ある地域社会の構築に向けた生涯学習の推進

①生涯学習推進体制の確立

新型コロナウイルス感染症の影響により、よもやま歴史教室や人権コンサートなどの事業は実施できなかったが、かもしかライフカレッジ等、生涯学習の振興を図るための講座や講演会などを実施可能な範囲で行った。また、外国語指導助手により、隔月で国際交流会を開催し、町内における国際交流活動を推進した。

○生涯学習推進事業

よもやま歴史教室 2020

[主催]菺野町教育委員会/よもやま歴史サークル

回	通算	日時	内容	講師	人数
1		5月23日 14:00~	児童雑誌『赤い鳥』が生んだ作家 新美南吉 ～日本児童文学史からたどる「ごんぎつね」の誕生とその後～	新美南吉記念館 遠山武嗣 ストーリーテラー 小林沙也加	中止
2		6月20日 14:00~	考古学で問う天皇陵古墳 ～箸墓古墳・大山古墳・野口王墓古墳～数々の陵墓踏査に加わった経緯から～	NPO法人 東海学センター理事長 今尾文昭	中止

3	7月18日 14:00～	日本書紀の呪縛 ～21世紀を迎えた今も、私たちの中に生き続けている書物の意味とは～	名古屋市立大学 人間文化研究科 吉田一彦	中止
4	9月12日 14:00～	安土幕府はあった！～天正年間 安土と鞆の二重政権がしのぎを削った7年間について～	三重大学教育学部 大学院地域イノベーション学 研究科 藤田達生	中止
5	11月21日 14:00～	渋沢栄一の社会公益活動 ～2021NHK大河ドラマにちなんで～	千葉大学大学院 国際教養学部 見城悌治	中止
6	12月19日 14:00～	東雲の斉王・大来皇女と壬申の乱 ～齋宮歴史博物館「大来皇女と壬申の乱」令和元年度の特別展から～	齋宮歴史博物館 学芸普及課 岸田早苗	中止
7	1月23日 14:00～	戦国武将に学ぶ長生きのコツ！ ～馬淵まり著「戦国診断室」から～	刈谷豊田東病院診療科 大川内幸代	中止
8	2月20日 14:00～	ふるさと千種によせて～収集・調査・編集の過程から、千種の歴史を紐解く～	千種郷土学習会 水越昇、金津衛	中止
9	3月20日 14:00～	日本という国～古事記の中に日本人の源流を探る～	歴史研究家 Eco&Cost 研究所 平尾栄滋	中止

かもしかライフカレッジ 2020 [主催]菰野町教育委員会/かもしかサークル

回	日時	内 容	講 師	人数
1	8月13日 18:30～	夏のほしぞら観望会	坂下星見の会	60
2	8月29日 14:00～	所蔵古文書から見える 江戸・明治期の菰野と横山家	横山 陽二	35
3	11月7日 14:00～	フラワーアーティスト 佐々木直喜の世界	菰野花苑 佐々木 直喜	51
4	12月13日 第1部 10:30～ 第2部 14:30～	ウィンターコンサート	三重ユナイテッド ウィンドオーケストラ	438

○教育委員会主催 人権教育事業

事業名	期 日	場 所	人 数
各地区公民館 ・人権コンサート ・人権講演会	5月～2月 (5回) (5回)	各地区公民館 各地区コミュニティセンター 農村センター、けやきホール等	中止
平和祈念会 2020 ・コンサート ・映画上映	7月26日	町民センター ホール	中止

○教育委員会主催 文化事業

事業名	期 日	場 所	人 数
菰野寄席		菰野地区 コミュニティセンター和室	中止
町民盆踊り講習会		菰野地区 コミュニティセンターホール	中止
コボンタフェスティバル	7月5日	菰野町町民センターホール	中止
成人式	1月10日	菰野町町民センターホール 菰野町体育センター	373 (2部制)
プロの音楽家による 課外授業アウトリーチ	7月～3月	町内各小学校	町内5校

○教育委員会支援文化事業

事業名	期 日	場 所	人 数
第24回菰野町俳句大会	7月11日	菰野町庁舎4階会議室	154名 551句
第11回三滝川燈火祭り & 第33回町民盆踊り大会	8月22日	三滝川河川敷周辺	中止

○国際交流事業（異国文化とふれあう）

事業名	期 日	場 所	人 数
海外のおもちゃ、遊び道具に関する クイズ	7月8日	菰野町庁舎4階会議室	13
GOOD LUCK SUPERSTITIONS AROUND THE WORLD	9月9日	菰野町庁舎4階会議室	10
世界のクリスマス ～Christmas around the world～	11月11日	菰野町庁舎4階会議室	18
HAPPY NEW YEAR!	1月13日	菰野町庁舎4階会議室	8
Spring is coming! (イースターバスケット作り)	3月10日	菰野町庁舎4階会議室	1

②公民館機能の充実

生涯学習の推進を図るため、町公民館や地区公民館において各種学級、講座を開催するとともに、公民館を趣味のサークルの場として、町民センターや南部公民館、地区公民館等の施設を町民に開放した。

○公民館教室及び講座

	教室、講座名	期間	日時	学習内容	講師名	会場	人数
1	文学講座	7月 ～ 3月	第2・3・4 金曜日の いずれか 13:30～ 15:00	方丈記を読む ～古典文学から 人生を学ぶ～	三重県生涯学習 センター講師 河原徳子	町民センター 会議室	45人
2	親子 ロボット 講座	8月 ～ 3月	第2・3・4 土曜日の いずれか 9:30～ 11:00	ロボット製作を 通して、ものづく りに必要な 知識、技術を 身につける	(株)ロボネット 堀田 武志	町民センター 会議室	親子 15組
3	ガーデニン グ講座	7月 ～ 2月	第3木曜日 9:30～ 11:00	お花やハーブの ある暮らしをし てみたい方へ	メイガーデンズ ガーデン デザイナー 柵山 直之	町民センター 会議室	20人
4	ソーシャル メディア 講座	8月 ～ 2月	第1・2・3 月曜日の いずれか 18:30～ 20:00	ソーシャルメデ ィアの活用等初 歩的な内容	有限会社 ザワン ノブ横地	菰野町庁舎 4階 会議室等	16人
5	びっくり理 科実験教室			様々な理科実験 を行い、“理科博 士”を目指す	ロボネット 堀田 武志	町民センター 会議室	中止

③図書館サービスの充実

当館は、平成20年4月11日に開館し、現在14年目を迎えており、町民をはじめ近隣市町の利用者の方々の生涯学習の場として、中学生、高校生から高齢者まで幅広い方々に利用いただいている。また、児童書、絵本、紙芝居から育児に関する資料を児童書架に配置するとともに、絵本の読み聞かせ、英語による絵本の読み聞かせ、菰野町に伝わる民話語り等を体感してもらっている。

令和2年度実績について新型コロナウイルス対応による休館や利用制限による減少はあったが、図書開架室の年間入館者数18万2千人に対し、31万7千冊の図書資料の提供を行い、年度末での平均貸出冊数は新型コロナウイルス発生以前に復している。生涯学習成果発表の場の提供や催事の開催等、滞在交流型図書館として施設運営は密を避けるため利用制限を行った。

また、学校図書館への図書館司書巡回支援を継続することで、児童生徒の読書関心を高める取組みを行っている他、小学生限定の『子ども司書』の卒業生を対象に、中学生以上も図書館に関わってもらおうための組織『リトルライブラリアン』の活動できる場を設けている。

ア) 図書館事業

事業名	開催日	時間	場所	備考	参加数
ボランティアのための絵本読み聞かせ講座	4月22日(水)	10:00 ～ 11:30	催事室	絵本の読み聞かせの方法や知識についてのボランティア対象の初心者向け講座	26人
リトルライブラリアン	7月12日(日) ～ 計7回	14:00 ～	催事室	子ども司書認定の中学生が読書推進リーダーとして活躍の場を提供	10人
子ども司書育成講座	8月2日(日)～ 12月20日(日)	13:00 ～16:00	図書館内	夏休みを利用し、小学6年生の図書館業務体験講座	12人
秋の読書スタンプラリー	10月17日(土) ～ 12月13日(日)		開架室	対象者 図書館利用者 中学生以上:50人 小学生:70人	120人
ほがらか絵本畑しんちゃん「読みあそびライブ」	12月20日(日)	10:00 ～11:40	交流ラウンジ	幼児～小学校3年生と保護者を対象に読み聞かせを交えたイベント (人数制限を行い、同内容で2回開催)	107人
リサイクルフェア	3月13日(土)	9:30～ 16:00	催事室	雑誌等リサイクルフェア (部屋内に15名までの人数制限有)	約200人

イ) 催事室利用状況

開催日、期間	行事名	主催者名
4月9日(木)	こもりぶサポーター会議	菺野町図書館
4月22日(水)	ボランティアのための絵本読み聞かせ教室	菺野町図書館
5月7日(木)	こもりぶサポーター会議	菺野町図書館
5月21日(木)	こもりぶサポーター会議	菺野町図書館
6月11日(木)～17日(水)	教科書展示	菺野町教育委員会
7月12日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
7月18日(土)	みつけ総会	菺野町図書館
8月2日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
8月5日(水)	TRCブックキャラバン	菺野町図書館
8月23日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
9月3日(木)	こもりぶサポーター会議	菺野町図書館
9月11日(金)～13日(日)	菺野町手づくり民話絵本コンクール作品展示	絵本の町づくり文化プロジェクト実行委員会
9月16日(水)～17日(木)	三重テレビ「三重県応援団」取材	観光産業課
10月8日(木)	こもりぶサポーター会議	菺野町図書館
10月5日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
10月22日(木)	ボランティア作業	菺野町図書館

10月25日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
10月28日(水)	ボランティア作業	菺野町図書館
11月6日(金)	菺野町図書館協議会	菺野町図書館
11月7日(土)～8日(日)	寒蘭花展示会	菺野寒蘭保存会
11月10日(火)	ボランティア作業	菺野町図書館
11月15日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
11月18日(水)	ボランティア作業	菺野町図書館
11月22日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
11月25日(水)	ボランティア作業	菺野町図書館
12月6日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
12月10日(木)	ボランティア作業	菺野町図書館
12月11日(金)～13日(日)	書道作品展示	麗泉書院
12月20日(日)	子ども司書育成事業	菺野町図書館
1月10日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
1月21日(木)	ボランティア作業	菺野町図書館
1月24日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
1月24日(日)	ボランティア作業	菺野町図書館
2月4日(木)	こもりぶサポーター会議	菺野町図書館
2月9日(火)	ボランティア作業	菺野町図書館
2月26日(金)	菺野町図書館協議会	菺野町図書館
3月2日(火)	菺中ボランティア	菺野町図書館
3月3日(水)～12日(金)	リサイクル準備	菺野町図書館
3月13日(土)	リサイクルフェア	菺野町図書館
3月14日(日)	リトルライブラリアン	菺野町図書館
3月16日(火)	菺中ボランティア	菺野町図書館
3月18日(木)	こもりぶサポーター会議	菺野町図書館
3月20日(土)	みっけ総会	菺野町図書館
3月27日(土)	民話がたり総会	菺野町図書館

ウ) ギャラリー利用状況

開催日、期間	行 事 名	主 催 者 名
7月5日(日)～15日(水)	熱田護写真展&応援メッセージ	観光産業課
8月7日(金)～18日(火)	平和祈念展(パネル展示)	総務課
9月6日(日)～13日(日)	絵の展示	蟬平麻記子
9月17日(木)～10月1日(木)	町内各小学校「私のアイデア貯金箱コンクール展示会」	菺野郵便局長大治伸嘉
10月2日(金)～11日(日)	作品展示(ハンドペイントアート)	菺野町商工会青年部

11月6日(金)～18日(水)	菰野町児童の税に関する習字等展示	税務課
12月5日(土)～6日(日)	作成品展示	河合真理
12月11日(金)～13日(日)	書道作品展示	麗泉書院
1月9日(土)～12日(火)	全国孔版画愛好者による年賀状展	大羽根孔版画同好会
2月4日(木)～14日(日)	パネル展 久留倍官衛遺跡のこれまでとこれから	四日市市教育委員会教育長 葛西文雄
2月25日(木)～28日(日)	地元の町の文化や町を象徴する風景の展示	菰野ユネスコ協会
3月2日(火)～9日(火)	春の火災予防運動中の予防広報	菰野町消防本部予防課
3月10日(水)～21日(日)	希望の笑顔写真展～東日本大震災を忘れない～	NPO 法人こどもほがらかワールド

エ) 令和2年度図書館貸出等の状況

開館日数	252日	新規登録者	1,030人
貸出人数	101,207人	貸出冊数	317,190冊
購入冊数	6,853冊	受入冊数	9,509冊

登録者数、蔵書冊数及び購入冊数（令和3年3月31日現在、購入冊数は累計）

登録者数	37,150人	購入冊数	108,535冊
蔵書冊数	174,831冊	※蔵書冊数は、図書資料、AV資料、雑誌の総数	

オ) 研修等の受け入れ実績

① 職場体験学習

令和2年度は受け入れなし

② 各種研修

受け入れ日	摘 要	
8月6日(木)、7日(金)	八風中学校教諭社会体験研修	1名

③ 社会見学・施設見学

受け入れ日	摘 要
10月4日(金)	竹永小学校3年生社会見学
10月24日(木)	朝上小学校3年生社会見学

④小中学校図書室巡回

学校図書室	巡回	学校図書室	巡回
菰野町立菰野小学校	22回	菰野町立菰野中学校	22回
菰野町立鶴川原小学校	19回	菰野町立八風中学校	21回
菰野町立竹永小学校	25回		
菰野町立朝上小学校	21回	小学校 計	105回
菰野町立千種小学校	18回	中学校 計	43回

⑤ブックトーク訪問

実施日	対象学年	学校名
7月8日(水)9日(木)	小学校3年生	菰野町立菰野小学校
7月17日(金)		菰野町立千種小学校
7月29日(水)		菰野町立鶴川原小学校
10月6日(火)		菰野町立竹永小学校
10月30日(金)		菰野町立朝上小学校
8月26日(水)27日(木)	小学校1年生	菰野町立菰野小学校
11月26日(木)		菰野町立朝上小学校
11月4日(水)		菰野町立千種小学校
11月27日(金)		菰野町立鶴川原小学校
1月20日(水)		菰野町立竹永小学校

⑥学校授業支援

支援日	対象学年	学校名
なし	小学校1年生	菰野町立鶴川原小学校
6月2日(火)		菰野町立菰野小学校
6月3日(水)		菰野町立竹永小学校
6月9日(火)		菰野町立千種小学校
6月10日(水)		菰野町立朝上小学校
10月2日(金)	小学校4年生	菰野町立竹永小学校
10月28日(水)	小学校4年生	菰野町立菰野小学校
12月18日(金)	小学校5年生	菰野町立竹永小学校

【評価と今後の方向】

図書資料の収集に努めてきた結果、蔵書冊数は17万5千冊となり、図書開架室の入館者数は開館13年間で延べ390万人を数えた。図書開架室に生涯学習室や催事室等を加えた館全体の年間入館者数は23万人である。

令和2年度では新型コロナウイルス対応のため4月、5月で約6週間の休館を行った。このため貸出冊数他が前年度より減少した。学習室等の利用停止は10月に解除したが、館内各部屋の机、椅子の間隔調整を継続しており、入館者数は減少している。図書開架室に生涯学習室や催事室等を加えた館全体の年間入館者数は前年比4割減である。

「第二次菰野町図書館整備基本計画」に基づき図書館職員の増員強化が進み、図書館司書は7人を擁し、学校図書館巡回支援や図書館開館日の見直し等の展開を行っている。

図書館司書が学校図書館を巡回することで担当教諭や地域の図書ボランティアとの連携として『こもりぶサポーター』の協力を得ている。今後も図書室の環境整備や児童生徒の読書関心を高めるブックトークなど読書支援を継続する。

小学生の『子ども司書』に加え、元子ども司書で現在中学生以上の『リトルライブラリアン』を組織化し、大人が読ませたい本ではなく自分たちが友達に教えたい本の観点から情報提供やイベントの協力等の運営に関わりを持ってもらっている。

開館日の見直しは平成28年度から、祝日と重なる月曜休館日の開館と金曜日に限るものの閉館時間の午後7時までの時間延長を実施していたが、新型コロナウイルス対応に伴い時間延長を中断した。

また、北部子育て支援センター窓口での図書貸出申し込みや返却本の受け取りは図書館遠隔地における図書館サービスとして継続して行い、利用につなげる。

引き続き図書資料の充実にも努めるとともに、生涯学習拠点機能を活かした利用しやすい施設の運営にも努める。

(7) 健やかな心身をつくる生涯スポーツの推進

① スポーツ活動の機会と教室、大会などの充実

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言などの影響から一部事業を中止することになったが、特定非営利活動法人元気アップこものスポーツクラブによるスポーツ教室開催事業を委託し、9種目の子どもを対象としたスポーツ普及、育成教室（16教室）を実施し、スポーツ活動の機会の提供や競技力の向上を図るとともに、町スポーツ協会へスポーツ大会開催事業の助成を行い、競技種目の振興を図った。

新型コロナウイルス感染症の影響から、毎年10月に開催している鈴鹿山麓かもしかハーフマラソンについて、新型コロナ収束後に第15回の記念大会を安全、安心して実施できるよう令和2年度については開催を見合わせた。

また、毎年11月に開催している障がい者スポーツの体験会などについても、新型コロナウイルス感染症の影響から、通常のカンパニを開催を中止し、オンラインで障がい者スポーツを紹介するなど、コロナ対策を講じた開催を実施した。

そして、三重とこわか国体に向けての普及、啓発活動を図った。

② スポーツ団体の育成や指導者の養成、支援

新型コロナの影響から一部事業の中止などはあったが、マスクの着用や消毒の徹底などコロナ対策を講じながらスポーツ推進委員を通じて、いつでも手軽にできるニュースポーツの普及を促進し、町全域への運動意識の向上を図った。

また、青少年の競技種目の振興を図るため、スポーツ少年団の育成充実を図るとともに、特定非営利活動法人菰野町スポーツ・文化振興会を通じ、各種団体間ネットワーク事業を企画・実施し、スポーツの発展に努めた。

③ スポーツ施設の整備、充実

令和2年度における主な施設整備として、大羽根テニスコートの人工芝全面改修を行うと共にベンチの増設やネットや審判台など器具の更新も行った。また、テニスコート横の運動公園管理棟トイレを和式から洋式に改修し、利用者が快適にスポーツを楽しめるよう努めた。また、屋内施設では、令和3年度国体スポーツクライミング競

技の会場となる体育センター外壁の防水塗裝修繕や2階通路手摺の補修を行った。災害時の収容避難所としての機能確保を図るとともに、スポーツ施設利用者の利便性向上と、安心して快適にスポーツに親しむことができるように努めた。また、新型コロナの中でも利用者が安心して施設を利用できるよう、手指消毒液や非接触体温計などを設置した。

町営の体育館やグラウンドについては、年月の経過により老朽化しているため、順次改修や修繕を実施し、安全に使用してもらえるように努めている。

【評価と今後の方向】

令和2年度については、多くの事業が新型コロナウイルス感染症の影響から中止や延期となったが、その中でも対策を施しながら元気アップこものスポーツクラブ事業や町スポーツ協会の大会などを通じて、多くの住民がスポーツに親しみ、スポーツに対する意識を高めることができた。

また、芸術文化、スポーツの振興を図り、各種団体間のネットワーク事業を企画実施し、地域社会づくりに寄与することを目的として設立された、特定非営利活動法人菰野町スポーツ・文化振興会の事業を、住民自らが参画し協働して実施することによって、発展させることができた。

新型コロナの影響が懸念される中でも、各団体による各種事業への自主的運営が進んできており、また障がい者スポーツへの理解を深めることで、今後も、町民一人ひとりがスポーツへの意識を高め、健康管理しつつ楽しくスポーツができる環境整備に努めるとともに、スポーツに対する受益者負担意識を進め、負担する対価に見合った環境整備と施設の充実を図り、生涯スポーツの実現を目指してさまざまな事業を展開していきたい。

(8) 豊かな文化の継承と創造

① 芸術文化活動への支援と交流の促進

菰野町における芸術文化とスポーツの振興を図り、各種団体間のネットワーク事業を企画して実施し、地域社会づくりに寄与することを目的としたNPO法人「菰野町スポーツ・文化振興会」が、芸術文化協会事務局を担当し、活動支援を行っている。

三条市の手づくりしかけ絵本コンクール事務局と菰野町絵本のまちづくり文化プロジェクト実行委員会との交流を計画していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

② 有形と無形の文化財や歴史的資産の保存と活用

国指定天然記念物である田光のシデコブシ及び湿地植物群落を良好な状態で保存継承していくため、保存管理計画をもとに、生態系の調査や雑草の刈取りを実施した。

事業名	期日	場所	人数
国指定天然記念物 田光シデコブシ群落観察会		田光シデコブシ群落	中止

③ 郷土愛の育成

郷土の歴史等を理解し親しみを深めてもらえるよう、図書館2階郷土資料コーナーにて、年2回の展示替えなどを行った。また、郷土史に対する問い合わせについては、図書館郷土資料コーナー等において対応した。

【評価と今後の方向】

生涯学習の振興を図るため、文化振興事業をはじめ、さまざまな事業に取り組んでいる。また、よもやま歴史教室、かもしかライフカレッジにおいては、自主サークルによる運営委託や協力により、自主的な事業運営に取り組んでもらっている。

青少年育成対策については、青少年育成町民会議を主体として、それぞれの関係団体が青少年の健全育成と非行防止のための取り組みを強化し、町ぐるみで青少年育成活動に取り組んでいる。今後も町民がそれぞれの分野において、自主的、自発的に関わりをもつような事業が増加するよう取り組みを進めていく。

IV 評価委員会の意見

学校教育事務事業

- ・情報教育の推進について、一人一台タブレット端末導入に向けて、ICTを効果的に活用した授業を推進するために準備を進めているということだが、タブレットを活用するだけでなく、従来のパソコンのキーボード入力とあわせた教育が必要である。
- ・新学習要領ではプログラミング教育が必修化されたが、教える側の教師がプログラミング教育について、知識がない者が多い。単に児童生徒にアプリを与えて終わりとならないよう、それに携わる教師の資質の向上が急務である。
- ・ICT環境がこれだけ発達している中、情報教育を推進し、一人一台端末を活用していくことはもちろん必要なことである。わからない漢字や計算などもタブレットがあればすぐに答えはでるが、答えだけではなく計算などの過程を理解していることが大切である。学びの過程でタブレットを活用する部分とそうでない部分の見極めが大切である。
- ・これだけ情報が発達している状況の中、児童生徒が有害サイトなどを通じて、被害を受けることは多いに考えられる。そうならないために、児童生徒を守るための十分な対策を望む。
- ・児童生徒の中には、パソコンやタブレットの扱いが苦手な者もいるだろう。児童生徒間で教えあうなど、助けあっていくことは必要だが、そのような児童生徒が取り残されていくことのないようにしてほしい。
- ・ALT 1名が7月に帰国後、現在は新規の者が来日できていないとのことである。小学校での英語が必修となり小学校教員は突然教えなければいけなくなり、苦慮している者も多い。タブレットなどを利用することはできるが、ALTの存在は児童生徒のためだけではなく教員の手助けにもなる。
- ・「教育のまち」をめざしていくのであれば、英語教育だけでなく第二外国語まで取り組むことができれば素晴らしいことである。
- ・通級指導教室「ほっとルームたいよう」を開設したとのことである。通級指導は特別支援学級と通常学級との支援対策であり、学習障害などを持っている児童などには大変重要なものであるが、通級できる児童数や時間数は非常に限られている。他校へ通級しなくても自校で児童生徒が必要とする部分だけ取り出して教えることのできる体制が理想である。
- ・全員喫食の中学校給食実現に向けて、現在協議を行っているところである。それに関わって現在の子どもは充分なおかずがあるにも関わらず、ふりかけがないとご飯が食べられない子が多いと聞く。ご飯の食べ方などを含めて、食育をぜひ進めていただきたい。

- ・近年大雨が増え、川の氾濫などによる災害が全国各地で増えている。菰野町の地形に合わせた防災教育に取り組んでほしい。自分の身を守るのはもちろんであるが、中学生になってくると地域や周りの方の助けになることもあるだろう。
- ・確かな学力の育成のために少人数指導やみえスタディ・チェックなどへの取り組みをしっかりと行っているようだが、それに伴う子どもの満足度を把握することが大切ではないか。わからないことが本当にわかるようになれば子どもの満足度もあがってくるだろう。子どもの習熟度にあわせた授業の展開が必要である。また、学力をあげることは大切なので、学力が上位の県の子どもたちの学習方法を見習うことも一つの方法であるが、学力を上げることよりも毎日学校へ行くことが楽しい、学校へいきたいと感じていることの方がすばらしいことである。

社会教育事務事業

- ・元気アップスポーツクラブによるスポーツ教室では、新型コロナウイルス感染症の影響で、従来なら1回の教室を3回に分けて行うことで人数を分散させるなどの工夫をしていると聞く。このコロナ禍では必要なことだが、その分指導者の方への負担は増えることになるので、指導者の方と充分調整して行ってほしい。元気アップスポーツクラブは子どもたちの才能や素質を伸ばしていくのに大変有効なものである。元気アップの教室が途絶えることのないよう指導者の確保をお願いしたい。
- ・テニスコートの全面改修などが行われ、スポーツ施設設備の充実に努めていただいた。このコロナ禍では難しいと思われるが、利用者が増えるよう有効に活用してほしい。

図書館事業

- ・このコロナ禍において、読書をする事、本に接することが増えてきていると思われる。もっと児童生徒の読書への関心を高めるためにも、「子ども司書」から続く「リトルライブラリアン」の制度は大変よい制度だと思う。どんどん活動の場を広げ活躍して行ってほしい。